

## 発刊を祝して



水海道市長  
遠藤 利

平成八年十一月十二日に開催された大八洲開拓五十周年記念式典に私もご招待をいただき、お祝いの粗辞を申し述べさせていただきます。

その際にも記念誌発刊のお話がありましたが、さらに昨年暮れには石田組合長さんが市役所にお見えになり、記念誌への序文執筆の依頼がございました。

私は、ふと今は故人となられた落合元市長がご健在であられたなら、誰よりも喜んでお祝いの言葉を執筆されたであろうと思われました。落合元市長と佐藤初代組合長とは旧知の間柄と伺っていたからです。

くしくも大八洲開拓五十周年の記念すべき年に、私が水海道市長として記念誌に序文を掲載して頂ける機会を与えられその任の重大さに畏敬の念をいだきつつ粗文を寄せさせていただきます。

私はこれまで水海道市議会議員として大八洲の方々時々は接する機会もございましたし、開拓事業の苦労はある程度知っているつもりでございましたが、昭和五十年発行の大八洲開拓史、さらに今回発刊される同続編の校正原稿を拾い読みさせていただきます。いただきましたが、今までの私の認識がいかにあまいものであり、地を這う努力とはまさにこのことをいうのかと思えました。

私も水海道市政を担当するようになって三年目、私なりに難問との戦いに明け暮れ市長職も苦労の連続だなあと感じておりましたが、皆さん方の苦労に比べればと逆に励まされる毎日でございます。

大八洲開拓史（前編）では満州開拓での寒さと飢えとの戦いの日々、そして敗戦、引揚げ途上での逃避行、幼い命がお年寄りの命が極度の疲労と病気などにより次々と奪われていく、まさに生地獄のような故郷日本への帰還であったことが記されております。

そして昭和二十一年一月現在地への入植、入植一カ月後には早くも荒れ地を開墾しての麦の蒔付を行うなど、皆さん方の農

業へのこだわりと生き抜く力の強靱さにはただただ驚くばかりです。

それ以後の荒れ果てた新天地での文字どおり血のにじむような努力、それを阻むような幾度ともなく襲い来る台風等による壊滅的な打撃、これらを繰り返しつつも常に一步一步前進できたことは初代組合長であった佐藤孝治氏の理念とする「偕に拓き共に築く」という共同共育の精神的な支えがあつてのことだろうとその指導力にはただ敬服するばかりでございます。続編では、その共同の努力がいかに大変なものであつたかが、この組合員の特に女性達の口で語られ、苦しくても苦しくてもあくまで楽天的な心もち続け共同の事業が達成されたことが記されております。

このように優れた指導者の資質と努力は勿論ですが、組合員のそれを信頼し団結することが基本にあつて成功されたのだろうと私なりに思っております。

しかし、いずれ行わなければならない共同経営から個人経営切り替え時期の選択は組合の最も難しい問題であつたらうと思つておりました。このことは大八洲開拓を築いた女たちや加藤医師の回想の中で語られております。

個人経営に移行してからの、個々人の努力は加藤医院への通院が極端に減つたといわれるほど骨身を惜しまずに働き、今日の土地利用型の大型農業や先進的な畜産業など水海道市の農業に先導的な役割を果たされております。

今日の農業情勢は皆さんよくご存じのように、米の問題をはじめ酪農、肉用牛、養豚等多くの分野で困難に突き当たっておりますが、大八洲の皆さんがこれまで幾多の悪条件を克服してこられましたように、現在の荒波も大八洲開拓農業協同組合に固く結集し皆さんの創意と工夫と努力により必ず乗り越えられると確信しております。

記念誌発刊にあたり、今後の大八洲開拓農業協同組合の益々のご発展と組合員の皆様方のご繁栄をご祈念申し上げます。